

赤坂 陽夏 / 大分県立鶴崎工業高校 3年



現状分析・問題抽出

課題一覧の掲載情報や課題提供者へのヒアリング、生活者としての意識等からこの課題をどのように捉えるか？

▶ 現状について

- 奈良時代には豊後国分寺が置かれ、鎌倉時代には大友宗麟が守護となったことで大友氏にゆかりの深い史跡が残されている。
- 昭和30年に植田村、東植田村、各村が合併し大分村になり、昭和38年に大分市に合併した。植田、宗方、横瀬、東植田、寒田、敷戸、鷲乃、賀来の8つの行政地区と135もの自治体から成っている。
- 住宅団地の造成により人口が増加している。
- 植田地域内には国指定史跡の高瀬石仏、豊後国分寺跡、千代丸古墳など貴重な文化遺産が遺されている。

▶ そのままの問題はどこにあるのか

- 植田地区に住んでいる人でも、植田の歴史書が存在することを知らないという現状がある。
- 植田を自分の街として興味を持ってもらうことが大切だと思う。そのためには、まず歴史書を手に取ってもらうことが重要なのではないかな。

ビジョン

そもその問題を解決するためには、どのような状態になることが望ましいと考えるか。

- 植田の歴史を知ってもらうために、若い方にも手に取ってもらいやすいようなデザインが望まれる。
- 手に取ってもらうためには、目に入った際に立ち止まってもらえるようなインパクトのあるデザインにする必要がある。本文の内容とリンクした人物を入れることで、内容への導入を促すことができるのではないだろうか。
- 子どもに勧めやすくなれば、未来の世代に植田地区の歴史が語り継がれると思う。

プランニング

問題を解決するためのアイデアや、その先のビジョンを実現するためのプラン。

- 「我がまちわさだ」を小学校の図書館に置いてもらうなどして、若い世代の目に入る機会を増やす。
- 小学校や中学校の教室に「我がまちわさだ」を置き、常時読むことのできるようにする。
- 一家に一冊歴史書を配布する。家に歴史書があれば、必然的に読む機会が増えると思われる。また、子どもがいる家庭では、児童書とともに歴史書が家にあれば、読書の一環として興味を持って読んでもらえるのではないかな。

デザインコンセプト・提案のポイント

アイデアやプランを実践するためのデザインの役割や問題解決のためのポイント。

- 植田地区にゆかりのある人物を表紙にすることで、表情に目のいくデザインにした。
- 植田地区の守護であった大友宗麟と、高瀬石仏の五人の仏像を配置した。大友宗麟の勇ましい姿や、五人の仏像の表情の豊かさをそのままに、単調化したイラストで表現し、人物を漫画の表紙のような配置にすることで、小学生などの若い世代の人たちにも手に取ってもらいやすいようなデザインにした。
- イラストにしつつ、シンプルな形と落ち着いた色合いにすることで、広い世代に好まれるようにした。